

初めまして。私の名前は_____です。この建物とお庭をご案内させていただきます。この家は1851年に造船業とサルベージ業をしていたエイサー・ティフトによって建てられ、1931年にアーネスト・ヘミングウェイの家になりました。きょうは、屋内では彼と家族が使っていた調度品などを、屋外ではお庭や有名な猫たちをご覧頂きます。この猫たちは彼がここに住んでいた時に飼っていた猫たちの子孫です。もちろん、パパ・ヘミングウェイ（注：この後は愛称の「パパ」と呼びます）が好きだった猫と同じ特殊なつま先：6本指を持った猫がたくさんいます。この猫たちにつきましては、お庭で彼らを見掛けた時にもう少しお話ししましょう。

(居 間)
Living Room

ここはこの家の客間を兼ねる居間です。パパの妻ポーリンがパリに住んでいる時に収集した家具のいくつかをご覧頂けます。彼女とパパがこの家を買った時にキーウエストへ送ってきたものです。例えば、天井にあったすべての古いファンは彼女のシャンデリア・コレクションに付け替えられました。この重ね戸棚も彼女が収集したもので、サーカシアン・ウォールナットで作られた17世紀のスペイン製です。錠前付きで携帯可能な上段の戸棚は、昔、裕福なスペイン人が旅行する時、貴重品や書類を入れていったものです。ポーリンはこれを書き物机として使いました。パパ自身は絵画が好きでした。向こうの壁に掛かっているセント・ポール教会の絵は地元の画家ユージン・オッターが描いたもので、パパの収集品の1つです。大きな石版画の中でパパの右に描かれているのはグレゴリオ・フェンテスです。フェンテスはパパの釣り船ピラー号で20年以上にわたってコックと航海士をやっていた人で、良き友人となりました。

次の部屋へはホールを通過して行きますが、ドアのそばにある赤い革製の枢機卿の椅子を見て下さい。それはヘミングウェイ作品唯一の長編戯曲「第五列」をブロードウェイで上演した時の小道具に使われたものです。これは、ツアーが終わってからゆっくりとご覧下さい。それでは右側をお進み下さい。

(食 堂)
Dining Room

この部屋のもはすべて私どもで寄せ集めました。ウォールナットの食堂テーブルはポーリンの収集品で18世紀のスペイン製です。彼女の主要な収集品であったシャンデリアは、イタリアのベニス近くにある有名なムラノ島で、すべて手作りのガラスで作られたものです。2つの磁器の置物も、ともにイタリア製です。食器棚の上にあるあまり見掛けない精巧な鉄製のものをご覧下さい。これは正式にはタンタルスというスペインのボトル用金庫で、貴重な年代物を使用人から守るために使われました。ボトル用金庫の上にある写真でヘミングウェイの略歴を追ってみましょう。パパは1899年にイリノイ州オーク・パークで生まれ、1961年にアイダホ州ケッチャムにて61才で亡くなりました。彼はその61年間にわたって、アフリカでは猛獣狩りをし、メキシコ湾流では巨大マカジキを釣り、アルプスでスキーをし、従軍記者として戦争を取材し、そして、小説でピューリッツァー賞を、文学でノーベル賞を受賞という、とても充実した生涯を送りました。

写真は4人の妻たち、ハドリー、ポーリン、マーサ、そしてメアリーです。3度目までの結婚は離婚で終わり、メアリーはアイダホ州で彼が亡くなるまで一緒でした。なお、4人の妻たちは現在全員亡くなっています。

右方の写真は、ポーリンとの間の2人の息子パトリックとグレゴリーで、彼らはここで成長しました。グレゴリーは白雪姫と名付けたお気に入りの猫を抱いています。パパには最初の妻ハドリーとの間にジャックというもう1人の息子がいました。この3人の息子のうち、パトリックのみ存命でモンタナ州で暮らしています。

パパは、ポーリンと離婚した後はキューバに住居を移しました。1959年のキューバ革命の間はそこを離れアイダホ州に行っていました。

1951年にポーリンが亡くなった後は、この家はすべての家具付きで貸され、196

1年にパパが亡くなると、地元キーウエストの女性実業家ミセス パーニス・ディックソンに売却されました。彼女は1964年にこの家を博物館とするまでは母屋に住んでおりましたが、それ以降は裏の元車庫だった建物に移りました。この家は1968年に国の歴史的建造物に指定され、現在はミセス ディックソンの家族の所有となっています。

(朝食室、台所、廊下)
Breakfast Room, Kitchen and Hallway

次は2階へ上がり、ポーリンが作った小さな朝食室にご案内します。何故か暖炉が部屋の角の方に据え付けられていた食堂を朝食室と居間とに分割したものです。その朝食室では、ポーリンが取り付けさせた、GE社製の冷蔵庫をも備えている近代的な台所をご覧頂きます。元々の台所は母屋とは切り離された別棟にありましたが、現在の台所は居間の裏となりました。ポーリンは装飾タイルが好きでしたので、持っていたポルトガル産やスペイン産のタイルを壁に張りました。

これからホールを通り抜けますが、助祭の長椅子を見ておいて下さい。それはスペイン製ですが、2階の主人用寝室でも同じようなものをご覧頂きます。

それでは2階に参ります。右手の手摺りに掴まってお上がり下さい。階段を上がりましたら右に曲がって下さい。

(主人用寝室)
Master Bedroom

大きなベッドをご覧下さい。これは、ポーリンの生まれ故郷であるセント・ルイスから取り寄せたもので、実はツイン用のベッドを2つ繋ぎ合わせてあります。ヘッド・ボードは助祭の長椅子を思い出させますが、実は古いスペインの修道院の門扉です。ベッドの上の絵はヘンリー・ファウクナーによるもので、1974年に博物館が取得したものです。画家は動物が好きでアリスと名付けたペットのヤギを飼っていましたが、彼はそれを家の絵の中に隠しました。(注：アリスを指さして・・・) パパがここに住んでいる時は、ミロの描いた「農場」と題されたこれの原画がベッドの上に掛かっていました。それは、パリの画家から購入したものでした。その原画は、現在はワシントンDCの国立美術館にあります。

2つの小さな椅子はセットで、スペインの助産婦用の椅子とお産をするための椅子です。メキシコ製の重ね戸棚の上にあるのは、パブロ・ピカソからパパへの贈り物として有名な猫の置物のレプリカです。この猫は地下室で見つかったもので、1974年に最初の妻ハドリーがここを訪れた時に確認されました。オリジナルは泥棒によって、残念なことに修復出来ないほどに壊されてしまいましたので、「ヘミングウェイそっくりさん協会」のメンバーであるボブ・オーリンによってレプリカが作られました。これからホールを通過して子供部屋へ参りますが、生涯の大半を体重問題と闘ったパパの大きな体を浸したバスタブをご覧になってからお進み下さい。

(子供部屋)
Boy's Room

ここはパトリックとグレゴリーの部屋でした。現在はパパの生涯を通しての足跡を示す品々や写真を集めてあります。戸棚の中には彼の本の初版本とともに、西部を旅行した時のブーツや鞍袋が収められています。壁には、パパがオーストリアのシュルンスでスキーをしているところ、キューバで大きなマカジキを釣り上げてポーズを決めているところ、携帯タイプライターを盛んに打っているところの写真があります。こちらの壁には第1次世界大戦時の赤十字の制服を着た大変若いヘミングウェイの写真があります。この時にイタリアで怪我をした彼は、担当した看護婦アグネス・フォン・クローズスキーと恋に落ちました。彼女に結婚はノーと言われて失恋してしまいましたが、この体験は10年後に出版

した「武器よさらば」で使いました。この本は彼が初めてキーウェストに来た時に書かれたものです。ガラス陳列ケースには、子供の頃、ミシガン州北端部にあるウォルーン湖に旅をした時の思い出の品々があります。また、パパの友人スタンレー・デクスターから贈られた、特殊なつま先を持った最初の猫の逸話本もあります。なお、彼はマサチューセッツ州からやってきたサルベージ船の船長で、ここキーウェストのパー、スラッピー・ジョーでパパと出会いました。

ここは小さな部屋ですので、このツアーが終わってから人の少ない時に再度おいでになってゆっくりと1つ1つをご覧ください。

次の部屋はパトリックとグレゴリーの子守ミス エイダ・スターンの部屋だったところです。

(子守の部屋) Nursemaid's Room

この部屋には別の暖炉があります。そして、子供達を学校へ送り出した後は裁縫室としても使われました。暖炉の前飾りはイタリア製の大理石です。写真はアーネスト・ヘミングウェイのゆりかごから墓場までです。特に、一人の男として生涯の最盛期であった30才代をここで過ごした間の様子をご覧ください。質素な白い食器戸棚は、実は、小説のストーリーを練ったり執筆をしたりしたパパの原稿書き机の1つです。

流水装置の付いた、この浴室はヘミングウェイがこの家を買った時からあったのですが、ポーリンの持っていたアール・デコのタイルを床に張りました。浴室の天井が低いことに注目して下さい。その屋根の上には雨水を貯める水槽があり、屋内へ水を供給する様に配管されています。この町ではとても数の少なかった流水装置付きの住宅の内の1軒だったのです。

それではお庭のご案内に移ります。主人用寝室にあるドアーから外に出て、ベランダを廻り、外階段へ参りますので私についてきて下さい。トロピカルな庭園の素晴らしい眺めや道路を挟んだところの灯台がご覧になれます。私は階段下の大きな枝垂れイチジクの木のところでお待ちしています。

(階段を下りられる時は低い梁に気を付けて下さい)

(水槽と書斎) Cistern and Writing Studio

(猫の説明のポイント：彼らにはすべて名前が付けられています。定期的な獣医の検診を受けています)

皆さんは枝垂れイチジクの木の下にいますが、この木はこの家を建てた時に植えられたものと思われます。通路に敷かれているレンガは、元々はポルティモアの町中の通りに敷かれていたものをここに運んだものです。1935年に敷地の周りに塀を作ろうと、パパが大量に購入した物の一部です。それは、金網フェンスから覗き込む大勢の旅行者から家族のプライバシーを守るためでした。このコンクリートのテラスは、実は、飲料水用の雨水を貯めるメイン水槽を覆っているものです。現在のキーウェストは1940年に合衆国海軍によって建設されたパイプを通じ本土から水を得ています。このセメントの上にはたくさん猫の足跡があります。また、ステップの上にはアライグマの足跡もあります。

こちらの建物は元々は馬車の車庫でしたが、パパは2階を改造して書斎としました。今日では皆さんはそこを見るのに階段を使いますが、当時、パパはベランダの手摺りの1ヶ所を出入口として切り取り、書斎までの間は古い炊事場の上を通る「キャットウオーク」と呼んだ渡り廊下を掛けました。彼はいつも午前中に執筆していましたので、ベッドから起き出すとそのままそこを歩いて書斎に入りました。炊事場とキャットウオークは1948年の嵐で吹き倒されてしまいました。

書斎は、パパが使っていた古いロイヤル社製タイプライターやキューバの葉巻職人の椅子そして彼が集めた思い出の品々とともに当時のままに残されています。この書斎では、

「午後の死」「アフリカの緑の丘」「持つと持たぬと」「誰が為に鐘は鳴る」そして、「キリマンジャロの雪」「フランシス・マッコマーの短くも幸福な生涯」といった有名な短編の多くを執筆しました。

皆さんは、観覧エリヤから、今すぐ見学されても結構ですし、ツアーが終わってから人の少ない時にゆっくりと見学されても結構です。階段では、手摺りに掴まって気を付けて上り下りして下さい。次の説明場所のヘミングウェイのプールでお待ちしています。

(プール)

Pool

このプールはキーウエストの住宅で最初に作られたものです。そして、長さは約20mあり今でも最大です。飛び込み板を使う奥の方は約2.7メートルの深さがあります。プールは、屋上にシダが生えているコンクリート造りの古い燻製場の中の塩水の井戸からの水で満たされています。パパ自身がプールを計画しましたが、スペイン内戦の勃発により従軍記者となって派遣されたため計画は中断しました。そこで、1937年から38年に掛けての冬の間にポーリンが工事を指図して完成させました。パパがスペインからキーウエストへ帰ってきて完成したプールを見た時には、少々の予算超過を覚悟しましたが、2万ドルという最終的な工事費には仰天させられました。その時、ポケットから1枚の1セント銅貨を取り出し、それをポーリンに渡しながら冗談を言いました「ほら、私から取れる最後の1セントだよ」と。このパパの「最後の1セント」は緑の柱の前のガラスの下にご覧頂けます。

この古い車庫の1階はゲスト・ハウスに改造されました。ポーリンの亡くなった後、アーネストと4番目の妻メアリーがこの家を訪れた時に泊まりました。彼らの家はキューバにありましたが、最後となった1960年までしばしばここを訪れました。現在、ここは私どもの事務所と本の販売所となっています。次の説明は猫の水飲み場です。どうぞ、この道を右にお進み下さい。

(猫の水飲み場)

Urinal

パパがペットのために作ったこの水飲み場は、世界でもっとも有名な猫の水飲み場であることを疑う余地がありません。上にあるのはキューバから持ち帰ったスペイン製のオリブの瓶です。下にある水鉢はキューバからではなく、パパの良き友ジョー・ラッセルのやっていたバー、スラッピー・ジョーから持ち帰ったものです。良く見て下さい。実はこれはバーの男性の小用トイレです。ポーリンがそれを装飾タイルで飾りました。最後の説明は後ろのポーチです。

(ポーチと地下室)

Porch and Basement

1851年にエイサー・ティフトがこの家を建てた時、この場所から切り出した（これと同じ様な）石灰石のブロックで作られました。その跡が建物の下の深さ約2.7mの地下室となりました。現在この地下室は収納庫として使われていますが、決して湿気ることはありません。それはこの家が海拔約4.9mの低い丘の上に建っているからです。

これでツアーを終わりますが、皆さんはご自由に、この家のいろいろな部屋を再び見学されたり、お庭を気の向くままにのんびりと散歩して下さい。もし何かご質問がありましたら、喜んで出来る限りお答えいたします。本日は、ヘミングウェイの家をご訪問頂きありがとうございました。